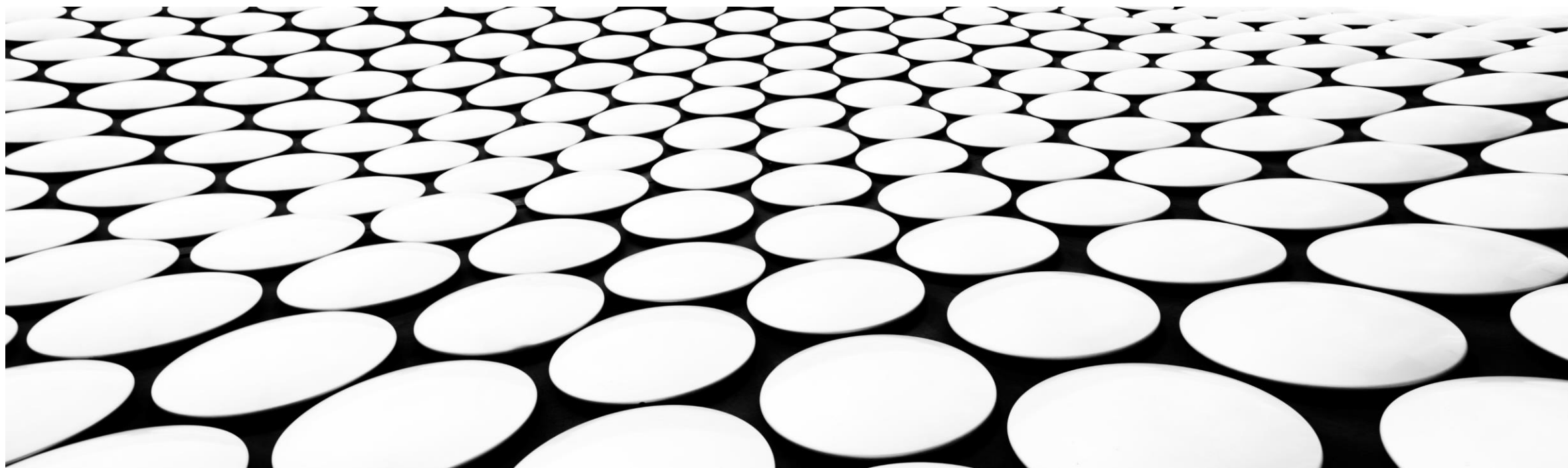


2023年度第2回 施設一体型小中一貫教育校設置研究会

- 1 二宮町の小中学校における喫緊の課題と施設一体型小中一貫教育校の意義
- 2 にのみや学園開校後の各校の様子

2023. 8.23



二宮町の小中学校における喫緊の課題 協議の進め方

- 1 課題提起①② ※参考資料 1, 2
- 2 提起された課題、聞き取りによる課題を含めて喫緊の課題だと思ふことをグループで出し合い、その問題点を話し合ってください。
⇒ 付箋に記入し、模造紙に貼り、掲示
- 3 各グループ発表・共有 ※グループ協議に入る前に、発表者を決めてください。進行は教育委員の皆さんで。
- 4 課題を整理し、第3回研究会において施設一体型小中一貫教育校設置との関連を考えていきます

喫緊の課題 協議の方向性

これまでに出示された「子どもたちの課題」や「めざす子ども像」に沿って見たときの課題性は何か、という視点でご協議ください

確認：二宮の子どもたちの課題

施設一体型小中一貫教育校設置研究会より

- 子ども達自己表現の仕方に課題
- 個人と集団とのつながりに課題
- 世界的、国際的な視野を持っているか
- ボーイズビーアンビシャス
- 素直でいいけど、それでいいのか
- 国際的な視野（外国の先生が少ない）を持てているか
- インターローカリズム（インターナショナルとローカルリズム）
- 子どもが地域活動に携わらない
- 人と人の関係の繋がる力が弱い

確認：二宮のめざす子ども像

二宮町小中一貫教育推進計画P.36

- ・自分の心と身体にまっすぐに向き合い、自分の良さを発揮し、自己実現できる子ども
- ・多様な価値観を大切にし、互いの良さを引き出しあい、主体的に他者と協働できる子ども
- ・二宮に愛着と誇りを持ち、社会に貢献できる子ども

これまでの研究会で出されためざす子ども像に関わるキーワード

- ・地域を愛する ・世界と自然につながる（私たちが知っている以上に子ども達は世界とつながっている
- ・バーチャルではなくリアルを知る
- ・他者と優しく接する ・地域、経験体験を増やした方がいい ・小中だけでなく、幼保を含めて
- ・学年があがることへのあこがれが持てる ・9年間の間に広がる視野 ・小さな失敗は大事
- ・自分の強みを知っているそれを生かせる ・自己理解を強める ・憧れる大人像がある
- ・温町知新（温故知新を変えた言葉。二宮町を知り、世界に羽ばたいていく）

1 喫緊の課題 提起 ① 小規模化

- 一色小学校は各学年の単級状態がこの先も続くと予想される
- 二宮西中学校は今後、各学年 2 学級～3学級の状態が続くと予想される
(一色小、山西小の児童数の減少による)

※小規模化に関する資料 資料 1

1 喫緊の課題 提起②

児童生徒数減少の中で増えている不登校の子どもたち

「不登校」の定義（文部科学省）

- ・何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景により、児童生徒が登校しないあるいはしたくともできない状況にあること（ただし、病気や経済的な理由によるものを除く）をいう。
- ・年度内に30日以上欠席した児童生徒を長期欠席者として、その欠席理由を「病気」「経済的理由」「不登校」「その他」に区分して調査

※不登校に関する資料 資料2

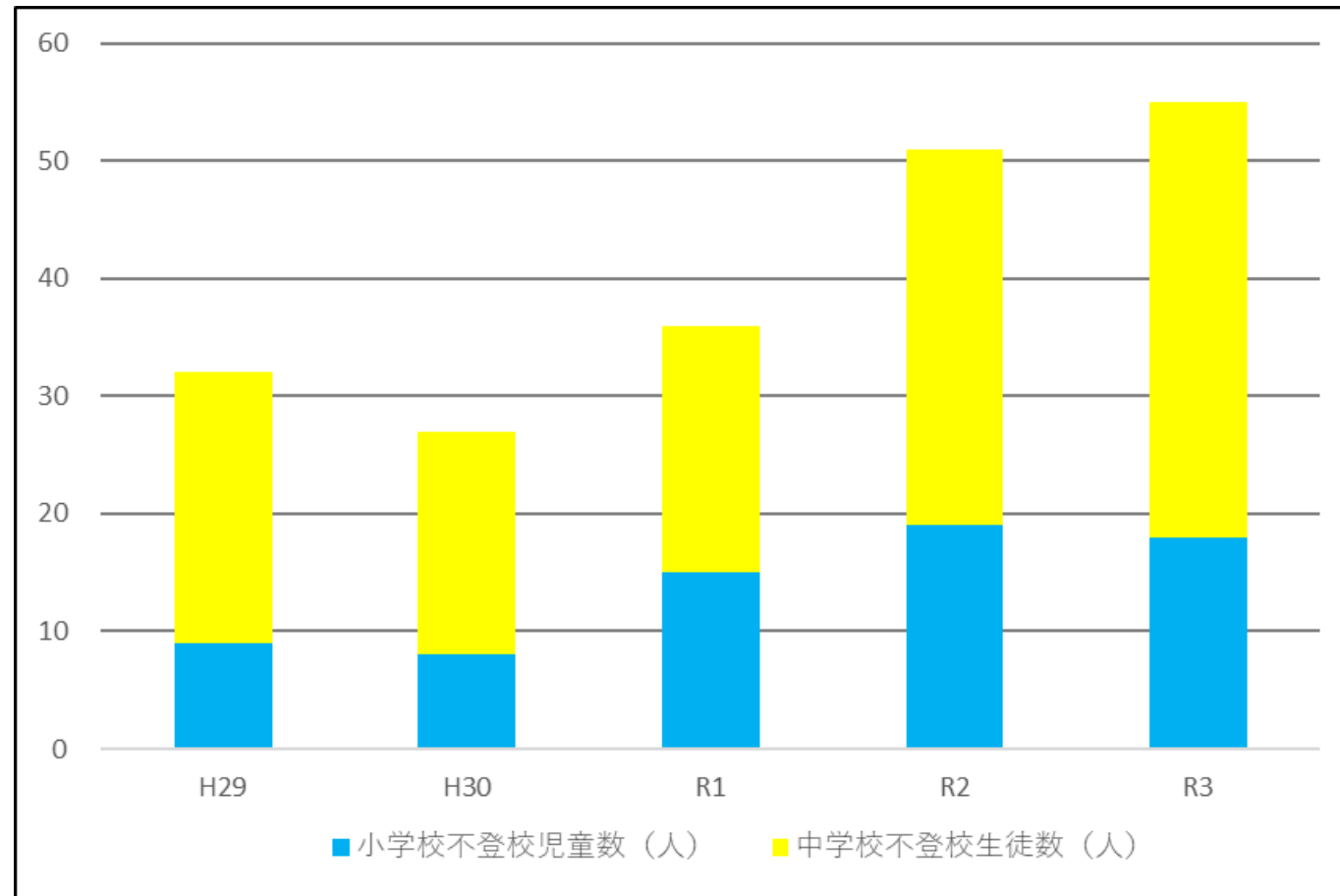
二宮町の不登校児童生徒数の推移

不登校児童生徒数の推移

年度	H29	H30	R1	R2	R3
小学校不登校児童数（人）	9	8	15	19	18
中学校不登校生徒数（人）	23	19	21	32	37
小中学校合計（人）	32	27	36	51	55

※不登校児童生徒数は、問題行動・不登校調査に基づく数値であり、病気、経済的理由、その他（家庭方針等）は除く。

不登校児童生徒数の推移 二宮町





2 へのみや学園開校後の各校の様子